

学習・情報センターを活用した利用指導、生徒・職員が丸となった「本が手元にある日常」づくり

岐阜県 中津川市立第二中学校

基本データ

所在地	中津川市中津川2251-1
児童生徒数	405人
教職員数	32人
蔵書数	14,190冊
年間貸出冊数	13,641冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】計画的・組織的な運営・活用

【活動のねらい】

- 図書委員会を中心として、生徒が主体的に取り組む図書館環境の整備（管理・運営）、配本サービス等で市立図書館と連携した図書資源の確保（資料整備）、教科指導と深く関わらせた教科別図書館利用指導計画（利用指導）、朝読書やビブリオバトルの実践（読書指導）等、多彩で魅力的な活動を展開することにより、生徒の読書活動の充実と向上を図る。

取組・活動の概要

（1）学習・情報センターの機能を活用した利用指導

- ① 図書館の活用を位置付けた年間指導計画
 - 図書館の活用を位置付けた各教科の年間指導計画を作成し、実践している。1年国語「ポスターセッション」の授業では、グループで設定した課題について調べ学習を行い、百科事典の便利さに気付くことができた。
- ② 行事に合わせたコーナーの充実
 - 情報センターが発信し続けるタイムリーな情報の活用や、市立図書館からの配本サービスを利用し行事に合わせたコーナーの充実に取り組んでいる。夏休みのワントライ（一研究）や進路学習で利用できる関連図書の充実を行った。
- ③ イベント的な取組
 - 「ビブリオバトル」の実施
年度末に全校生徒が参加。各クラスでグループ毎に本の紹介をする。
 - 「ビブリオバトル」を意識した年間目標の設定
友達が推薦する本に関心をもてるようになった。令和元年度で3回目。1年間の読書生活の集大成として位置付けてきた。
 - 学校司書による読書感想文の指導
1年生対象。専門的な立場から書き方や本の選び方などを指導。

（2）生徒・職員が丸となった「本が手元にある日常」づくり

- ① 朝の会后 10 分間の全校一斉朝読書
 - 落ち着いた一日のスタートをきる、様々な本を手に取り、集中して読むことで読解力を高めるために、朝の会后 10 分間の全校一斉朝読書を実施。
- ② 朝の学級別図書館開放
 - 朝の学級別図書館開放による、図書館利用の促進に取り組んでいる。普段図書館に行かない生徒も月 1 回程度は図書館を利用。全校生徒の来館につながる。
- ③ 職員が関わる取組
 - 「教科別コーナー」の設置や「先生のおすすめ本」の紹介。
- ④ 図書委員を中心とした生徒主体の読書活動
 - 委員会での図書館利用の実態把握と、呼びかけや図書館利用のマナー向上を目指すマナーカードの掲示などの啓発活動。
 - 生徒目線の主体的な読書活動の推進として、ウェルカム・ボードの作成やおすすめ本の紹介。
 - 生徒のアイデアを生かし、生徒の手で行う図書館フェアの実施。
 - 各学年の図書委員によるコーナーで、関連する本を展示・紹介。1年は部活やスポーツ、2年は映画になった本、3年は受験など、生徒自身が運営することにより、多くの生徒がコーナーの本を手取る姿が見られた。

取組・活動の工夫や特徴

- 図書館全体計画・第二中学校図書館づくり5か年計画を作成するとともに、教科別図書館利用指導計画を作成し、取組を進めている。
- 学校司書と担当教諭による図書委員への指導が効果的で、温かく心地よい図書館環境が整えられている。
- 新刊を購入するとともに廃棄作業も進めており、調べ学習用の図書も充実してきた。令和元年12月現在の蔵書数は14,190冊である。
- ビブリオバトルは、国語科と図書委員会が連携し、全校の取組としている。本を読む力・内容をまとめる力・伝える力・聞く力などが総合的に鍛えられ、生徒の読書の質が高まることに寄与している。
- 常に本が身近なものになるよう、一斉読書や図書館開放、図書委員が中心となる取組等、生徒と職員が一丸となって取り組んでいる。

取組・活動の成果や今後の展望

- 全校貸し出し冊数は、平成24年度では5,823冊であったが、平成29年度には14,957冊と大きく増加した。
- また、図書委員による読み聞かせや、ビブリオバトルなどの実践により、生徒が選ぶ本の質が向上した。
- 朝読書や学級別図書館利用、生徒主体の利用促進により、全校生徒が図書館にかかわり、「本がある日常」の実現ができた。

